

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八重洲通フィルテラス	階数	地上12F,地下1F
建設地	東京都中央区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	512 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,250 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2024年10月15日
敷地面積	884 m ²	作成者	浅見 邦一
建築面積	646 m ²	確認日	2024年10月15日
延床面積	8,048 m ²	確認者	浅見 邦一

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 59% (81 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.0

Q1 室内環境: 3.7

Q3 室外環境(敷地内): 3.7

LR1 エネルギー: 4.5

LR2 資源・マテリアル: 4.1

LR3 敷地外環境: 3.7

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.7

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合 地域のアイデンティティである久安橋(アーチ橋)のアーチ形状を継承したライトシェルフによる特徴的なコーナーデザインとすることで地域のランドマークとなるオフィスビルを計画している。また、公共的屋外空間を周辺との緑の連続性に配慮して敷地西側に配置し、屋外空間と建物とを一体的にデザインすることで地域に貢献できる街かどを創出している。		その他
Q1 室内環境 ・ライトシェルフの採用により開放的なカーテンウォール面の日射負荷を軽減するとともに、光を上方向へ反射させることで窓際天井面を明るくする効果も見込める。	Q2 サービス性能 ・本建物のコンセプトである曲面デザインをエントランスホールにも取り入れることにより一体感のある内装計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・久安橋のアーチ形状を継承したデザインとすることで周辺のまちなみに調和した景観計画としている。 ・敷地西側の屋外空間を緑化することにより、地域の賑わい形成に貢献する緑の連続を創出している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を導入しており、エネルギーの効率的利用に配慮した計画としている。 ・ライトシェルフや自然換気装置を採用することにより、自然エネルギーの有効的な利用を計画している。	LR2 資源・マテリアル ・躯体材料および躯体材料以外も含めてリサイクル資材を採用している。 ・ノンフロンの断熱材を採用している。	LR3 敷地外環境 ・駐輪場の設置及び適切な駐車スペースを確保するとともに駐輪場・駐輪場へのアクセスは歩道がない東側道路からとすることで歩行者の安全性に配慮した動線計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される